

明治大学商学部 創立120周年 記念シンポジウム「アート・オブ・物流」に NEXT Logistics Japan (株) 代表の梅村が登壇しました

2024年10月27日（日）、明治大学商学部の創立120周年を記念して開催されたシンポジウム「アート・オブ・物流」―物流業界の女性活躍及びプラットフォーム・ビジネスの潜在的可能性―に、NEXT Logistics Japan株式会社（以下、NLJ）代表の梅村が登壇しました。多くの学生や同大学の卒業生に参加いただき、最後に学生の皆様から質問も寄せられましたので、その様子をご報告します。



▲NLJ代表 梅村の講演

- ・タイトル：皆で運ぶ、物流の未来
―NEXT Logistics Japanの挑戦―
- ・2018年に設立以来、日本を代表する企業と共に物流の社会課題解決に取り組んできたNLJの活動



- ## ▲登壇者の方々とのディスカッション（左から）
- 明治大学商学部 菊池一夫教授、
株式会社オープンロジ 伊藤秀嗣代表取締役CEO、
CBcloud株式会社 松本隆一代表取締役CEO、
NLJ代表 梅村、明治大学商学部 町田一兵教授

ディスカッション&学生からのQAより

Q. 新しいものを生み出していくビジネスにおいて、求められる人材は？

大企業での働くのと新しい事業を軌道に乗せるでは、使う「筋肉」が違ってくるように感じる。ただ私の経験では、大企業でもベンチャーマインドを持つ人が、いずれ組織を引っ張ることが多い。また、新しい挑戦にはうまくいかないことも多いが、そこで次ステップを考え続けられる人が社会で活躍すると思う。



Q. 「問題を捉えなおす」とは、どのような発想で行うのか？

NLJでの仕事が進むほど、世の中のトラックは減っていく。NLJはトラックを製造販売する日野自動車の子会社だが、自分達の取り組みが進むほど、トラックの必要台数が減るという逆説的な状況だ。私が日野でトラックを売っていた頃から、「トラックはどう使われ、無駄はないか」と考え続けてきた。多く売ることが目の前の仕事だったが、視点を広げると、むしろ保有台数を減らすことが社会にとって有益だと気づき、「そのために何ができるか」を突き詰めた結果、全く逆の発想に至った。

Q. 影響を受けた本や言葉は？

最近共感したのは、漫画『進撃の巨人』。
物流の非効率な現状について「我々の代で終わらせるべきだ」という思いを共有した。
今が物流課題を解決する千載一遇のチャンスで、この非効率を次世代に残してはならないと感じている。